

第70次 印旛地区教育研究集会

算数・数学研究部会（小学校1・4・5部会）

研究主題

主体的に考える児童の育成

～「みなみの学びモデル」を活用して～

資料編



八街市立笹引小学校

# 笹引小 令和2年度 算数科 研究基本構想図

実態から  
身に付け  
たい力

- 自ら考え行動・・・言われたことはできるが、自分から考えて行動ができない。
- 表現力・・・人前に出て言葉で伝えるのは苦手である。



主題

主体的に考える児童の育成  
～「みなみの学びモデル」を活用して～



仮説

仮説 「みなみの学びモデル」を活用した「ふりかえり」活動を充実させることで、主体的に考えることができるだろう。

手立て

## A 統一した終末のふりかえり

- ① 「みなみの学びモデル」に沿った学習過程
- ② 「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムの学習プロセス

## B それ以外のふりかえり

- 発問計画を立てる
- ① 学習意欲を高める発問
  - ② 知識技能を定着させる発問
  - ③ 思考・表現を高める発問

## C 教師のふりかえり

- ① 評価規準と評価の場面や方法を明確にしておく。
- ② 『9つの基本と7つの実践』のふりかえり



目指す児童像




算数が好き！もっと学びたい！分かってほしい！と自分から考えることができる児童  
友達と交流して、自分の考えをもち伝え合うことができる児童




手だて A-① みなみの学びモデルのふりかえり

<低学年>

### ふりかえりカード

なまえ ( )

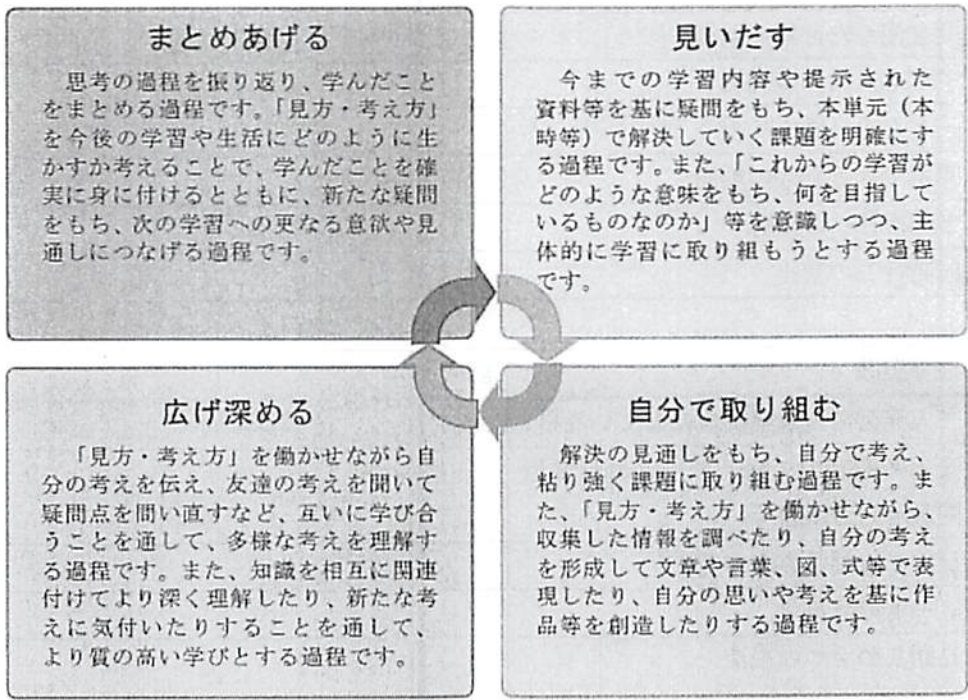
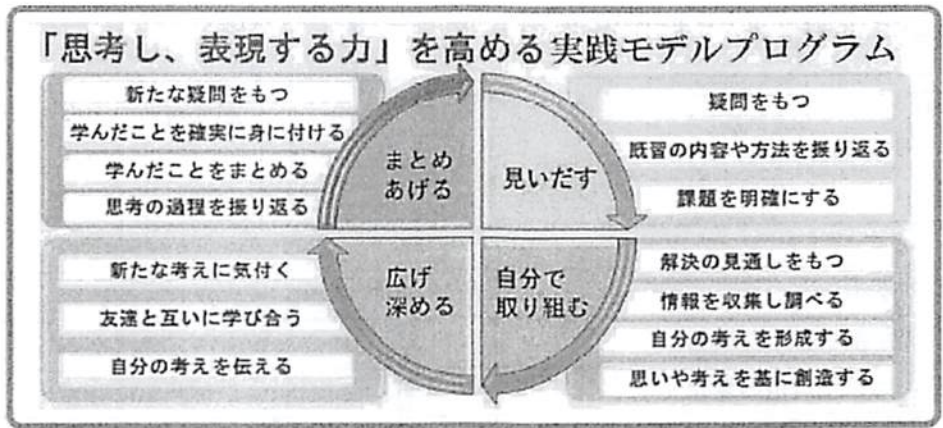
- ① いっしょうけんめいにとりくむことができたか。 
- ② じぶんのかんがえをもつことができたか。 
- ③ ともだちのはなしをきき、じぶんのかんがえをつたえることができたか。 

ひづけ	① 	② 	③ 	わかったこと
/				
/				
/				

<高学年>

### 算数 ふりかえりカード

日付	自己評価			ふりかえり
	①	②	③	
				◎→はじめてわかったこと、できたこと ○→今日の授業で大事だとわかったこと △→今日できなかったこと、次回がんばりたいこと
/				
/				
/				
/				
/				



※「見方・考え方」とは、「深い学び」の鍵となるものであり、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」という、教科等ならではの物事を捉える視点や考え方のことであり、教科等を学ぶ意義の中核をなすものです。

「みなみの学びモデル」とリンクさせて

実践モデルプログラム	みなみの学びモデル
見出す	① 授業の始め
自分で取り組む	② 自分の考え
広げ深める	意見交流
まとめあげる	③ ちょいたしタイム
	④ ふりかえり

参観者と授業者も記入し  
共有しました。

校内授業参観 授業者の 振り返りシート

授業者：  
教科と単元名：  
授業日：

記入者

<9つの基本>	評価	コメント
1 笑顔を基本とした表情		
2 場に応じた声量の変化		
3 子どもに合わせたテンポ		
4 間を使った言葉の強調		
5 子ども全員への視線		
6 子どもの言動を受容		
7 想定できるだけの準備		
8 学習規律への指導		
9 同時行為の禁止		

<7つの実践>	評価	コメント
1 一人発言での授業構成はしていない。		
2 まとめを自分で書くのであれば学習問題も自分で書く。		
3 反例での揺さぶりの意識化		
4 ノートの辞書化		
5 見通しの2つの視点 (プロセスとゴール)		
6 振り返りの2つの視点 (まともは全体、自己評価は自己ベスト)		
7 演者と演出家の使い分け		

<目指す児童像> 低学年		評価
主体的	・粘り強く取り組み、問題解決に最後まで取り組むことができる。 ・自分の考えをノートに書くことができる。	
ふりかえり	・毎時間、振り返りを行うことができる。 ・振り返りの時間に、何を学習したか確かめることができる。	

校内授業参観 授業者の 振り返りシート

授業者: 教諭  
 教科と単元名: 算数「割合(割合)」  
 授業日: 2/18

記入者

<9つの基本>	評価	コメント
1 笑顔の基本とした表情	○	前40...
2 場に応じた声量の変化	△	
3 子どもに合わせたテンポ	○	考えの時間は短めに
4 問を使った言葉の強調	△	
5 子ども全員への視線	△	
6 子どもの言動を受容	○	
7 想定できるだけの準備	○	
8 学習規律への指導	○	
9 同時行為の禁止	△	

<7つの実践>	評価	コメント
1 一人発言での授業構成はしていない。	△	
2 まとめを自分で書くのであれば学習問題も自分で書く。	○	
3 反例での書きよりの意識化	△	
4 ノートの辞書化	○	
5 見通しの2つの視点(プロセスとゴール)	△	
6 振り返りの2つの視点(まともは全体、自己評価は自己ベスト)	△	
7 演者と演出家の使い分け	△	

<目指す児童像> 低学年		評価
主体的	・粘り強く取り組み、問題解決に最後まで取り組むことができる。 ・自分の考えをノートに書くことができる。	◎
よりかえり	・毎時間、振り返りを行うことができる。 ・振り返りの時間に、何を学習したか確かめることができる。	○

校内授業参観 授業者の 振り返りシート

授業者: 教諭  
 教科と単元名: 算数「割合(割合)」  
 授業日: 2/18

記入者

<9つの基本>	評価	コメント
1 笑顔の基本とした表情	○	笑顔も相乗でよかった。
2 場に応じた声量の変化	○	
3 子どもに合わせたテンポ	○	場面ごに微調整していた。
4 問を使った言葉の強調	○	
5 子ども全員への視線	○	+
6 子どもの言動を受容	○	よく聞いてた。
7 想定できるだけの準備	○	
8 学習規律への指導	○	みんな思ってるから結構、お直しはいい。
9 同時行為の禁止	○	

<7つの実践>	評価	コメント
1 一人発言での授業構成はしていない。	○	複数で行った。
2 まとめを自分で書くのであれば学習問題も自分で書く。	○	書いたものを先生に見せた。
3 反例での書きよりの意識化	○	
4 ノートの辞書化	○	
5 見通しの2つの視点(プロセスとゴール)	○	
6 振り返りの2つの視点(まともは全体、自己評価は自己ベスト)	○	
7 演者と演出家の使い分け	○	

6年生で 全体、自分の考えを最後まで書くことができる。

<目指す児童像> 低学年		評価
主体的	・粘り強く取り組み、問題解決に最後まで取り組むことができる。 ・自分の考えをノートに書くことができる。	○
よりかえり	・毎時間、振り返りを行うことができる。 ・振り返りの時間に、何を学習したか確かめることができる。	○

7年生で取り組む時、この条件で見せたい。ここで意識が主体に行って来たか? 名前「全体的に」「自分の考え」をしっかりと、この後やりやうか? (2/18)

校内授業参観 授業者の 振り返りシート

授業者: 教諭  
 教科と単元名: 算数「割合(割合)」  
 授業日: 2/18

記入者

<9つの基本>	評価	コメント
1 笑顔の基本とした表情	○	笑顔も相乗でよかった。
2 場に応じた声量の変化	○	
3 子どもに合わせたテンポ	○	場面ごに微調整していた。
4 問を使った言葉の強調	○	
5 子ども全員への視線	○	
6 子どもの言動を受容	○	
7 想定できるだけの準備	○	
8 学習規律への指導	○	
9 同時行為の禁止	○	

<7つの実践>	評価	コメント
1 一人発言での授業構成はしていない。	○	複数で行った。
2 まとめを自分で書くのであれば学習問題も自分で書く。	○	書いたものを先生に見せた。
3 反例での書きよりの意識化	○	
4 ノートの辞書化	○	
5 見通しの2つの視点(プロセスとゴール)	○	
6 振り返りの2つの視点(まともは全体、自己評価は自己ベスト)	○	
7 演者と演出家の使い分け	○	

<目指す児童像> 低学年		評価
主体的	・粘り強く取り組み、問題解決に最後まで取り組むことができる。 ・自分の考えをノートに書くことができる。	◎
よりかえり	・毎時間、振り返りを行うことができる。 ・振り返りの時間に、何を学習したか確かめることができる。	○

校内授業参観 授業者の 振り返りシート

授業者: 教諭  
 教科と単元名: 算数「割合(割合)」  
 授業日: 2/18

記入者

<9つの基本>	評価	コメント
1 笑顔の基本とした表情	○	笑顔も相乗でよかった。
2 場に応じた声量の変化	○	
3 子どもに合わせたテンポ	○	場面ごに微調整していた。
4 問を使った言葉の強調	○	
5 子ども全員への視線	○	
6 子どもの言動を受容	○	
7 想定できるだけの準備	○	
8 学習規律への指導	○	
9 同時行為の禁止	○	

<7つの実践>	評価	コメント
1 一人発言での授業構成はしていない。	○	複数で行った。
2 まとめを自分で書くのであれば学習問題も自分で書く。	○	書いたものを先生に見せた。
3 反例での書きよりの意識化	○	
4 ノートの辞書化	○	
5 見通しの2つの視点(プロセスとゴール)	○	
6 振り返りの2つの視点(まともは全体、自己評価は自己ベスト)	○	
7 演者と演出家の使い分け	○	

<目指す児童像> 低学年		評価
主体的	・粘り強く取り組み、問題解決に最後まで取り組むことができる。 ・自分の考えをノートに書くことができる。	○
よりかえり	・毎時間、振り返りを行うことができる。 ・振り返りの時間に、何を学習したか確かめることができる。	○

校内授業参観 授業者の 振り返りシート

授業者: 教科と単元名: 英語 外国の習慣文化 授業日: 10/25	記入者
--	-----

<7つの基本>	評価	コメント
1 笑顔の基本とした表情	○	
2 場に応じた声量の変化	○	
3 子どもに合わせたテンポ	△	
4 問を使った言葉の強調	○	
5 子ども全員への視線	○	
6 子どもの言動を受容	○	
7 想定できるだけの準備	△	
8 学習規律への指導	○	
9 同時行為の禁止	○	

<7つの実践>	評価	コメント
1 一人発言での授業構成はしていない。	△	
2 まとめを自分で書くのであれば学習問題も自分で書く。	○	
3 反例での揺さぶりの意識化	○	
4 ノートの辞書化	△	
5 見通しの2つの視点 (プロセスとゴール)	△	
6 振り返りの2つの視点 (まとめは全体、自己評価は自己ベスト)	△	
7 演者と演出家の使い分け	○	

<目指す児童像> 高学年		評価
主体的	・基礎的基本的な知識及び技能を確実に身に付ける。 ・自分の考えをノートに書き、友達と共有し再思考することができる。	△
よりかえり	・自分の言葉で、その時間に学習した内容を書くことができる。 ・自分で書いた振り返りを次時につなげることができる。	○

校内授業参観 授業者の 振り返りシート

授業者: 教科と単元名: 英語 エンターテインメント・文化 授業日: 10月25日	記入者
---	-----

<7つの基本>	評価	コメント
1 笑顔の基本とした表情	○	
2 場に応じた声量の変化	○	
3 子どもに合わせたテンポ	○	ふたつの子に反応した。
4 問を使った言葉の強調	○	
5 子ども全員への視線	○	ふたつの子に反応した。
6 子どもの言動を受容	○	
7 想定できるだけの準備	○	
8 学習規律への指導	△	7:00~7:10の間に、椅子を動かす。
9 同時行為の禁止	△	7:10~7:20の間に、椅子を動かす。

<7つの実践>	評価	コメント
1 一人発言での授業構成はしていない。	○	
2 まとめを自分で書くのであれば学習問題も自分で書く。	○	
3 反例での揺さぶりの意識化	○	
4 ノートの辞書化	○	7:20~10:30の辞書化
5 見通しの2つの視点 (プロセスとゴール)	○	
6 振り返りの2つの視点 (まとめは全体、自己評価は自己ベスト)	○	
7 演者と演出家の使い分け	○	

<目指す児童像> 高学年		評価
主体的	・基礎的基本的な知識及び技能を確実に身に付ける。 ・自分の考えをノートに書き、友達と共有し再思考することができる。	○
よりかえり	・自分の言葉で、その時間に学習した内容を書くことができる。 ・自分で書いた振り返りを次時につなげることができる。	○

校内授業参観 授業者の 振り返りシート

授業者: 教科と単元名: 授業日:	記入者
-------------------------	-----

<7つの基本>	評価	コメント
1 笑顔の基本とした表情	○	
2 場に応じた声量の変化	○	
3 子どもに合わせたテンポ	○	
4 問を使った言葉の強調	○	
5 子ども全員への視線	○	
6 子どもの言動を受容	○	
7 想定できるだけの準備	○	
8 学習規律への指導	○	
9 同時行為の禁止	○	

<7つの実践>	評価	コメント
1 一人発言での授業構成はしていない。	○	
2 まとめを自分で書くのであれば学習問題も自分で書く。	○	
3 反例での揺さぶりの意識化	○	反例で揺さぶる意識化
4 ノートの辞書化	○	
5 見通しの2つの視点 (プロセスとゴール)	○	
6 振り返りの2つの視点 (まとめは全体、自己評価は自己ベスト)	○	
7 演者と演出家の使い分け	○	

<目指す児童像> 高学年		評価
主体的	・基礎的基本的な知識及び技能を確実に身に付ける。 ・自分の考えをノートに書き、友達と共有し再思考することができる。	○
よりかえり	・自分の言葉で、その時間に学習した内容を書くことができる。 ・自分で書いた振り返りを次時につなげることができる。	○

校内授業参観 授業者の 振り返りシート

授業者: 教科と単元名: 英語 「おととあそび」 授業日: 10/30	記入者
---	-----

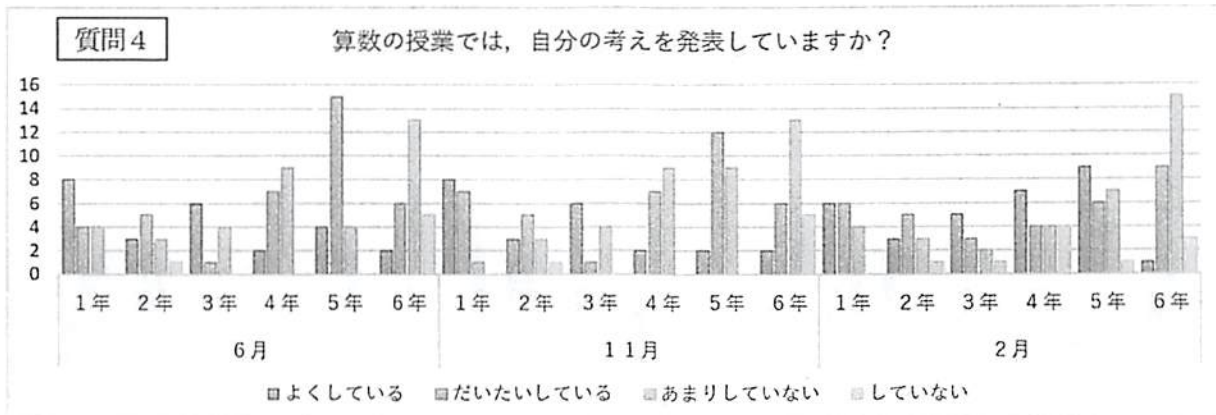
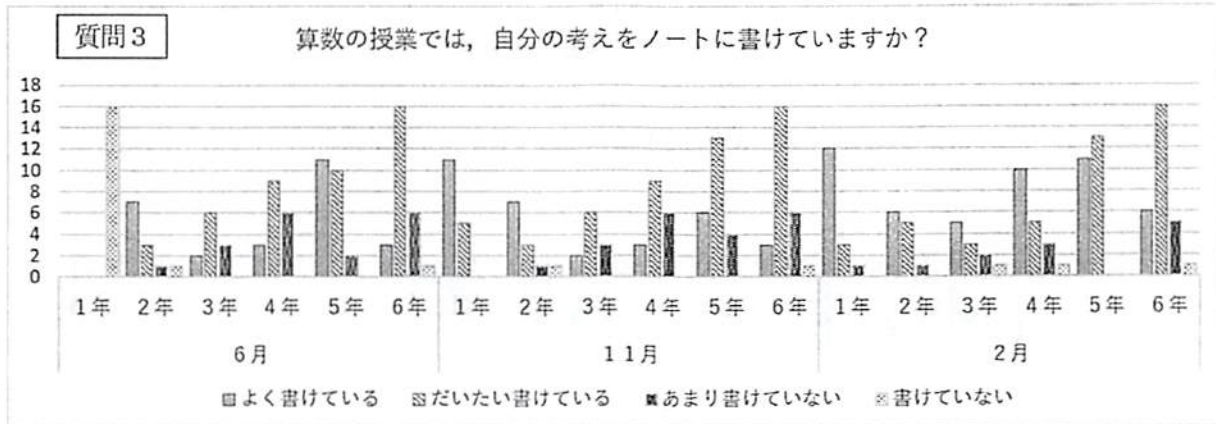
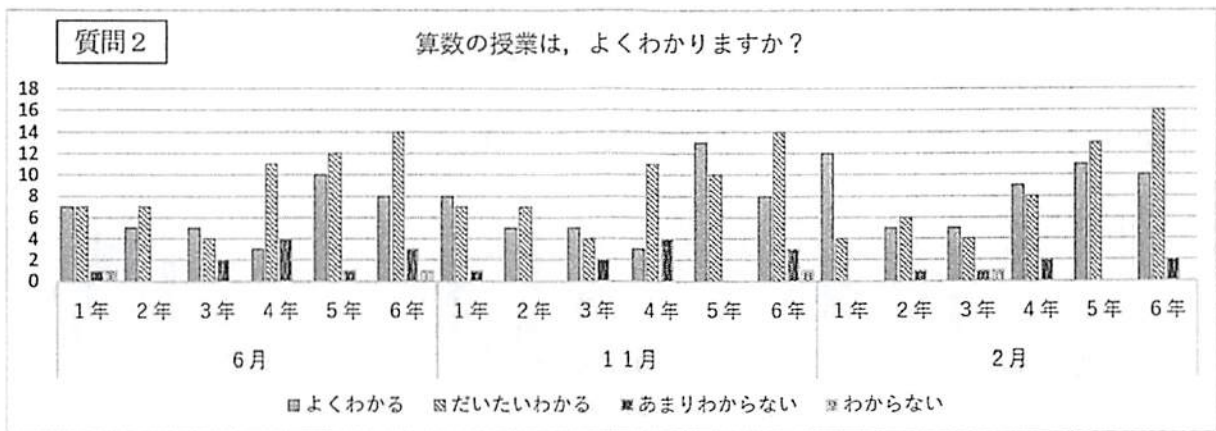
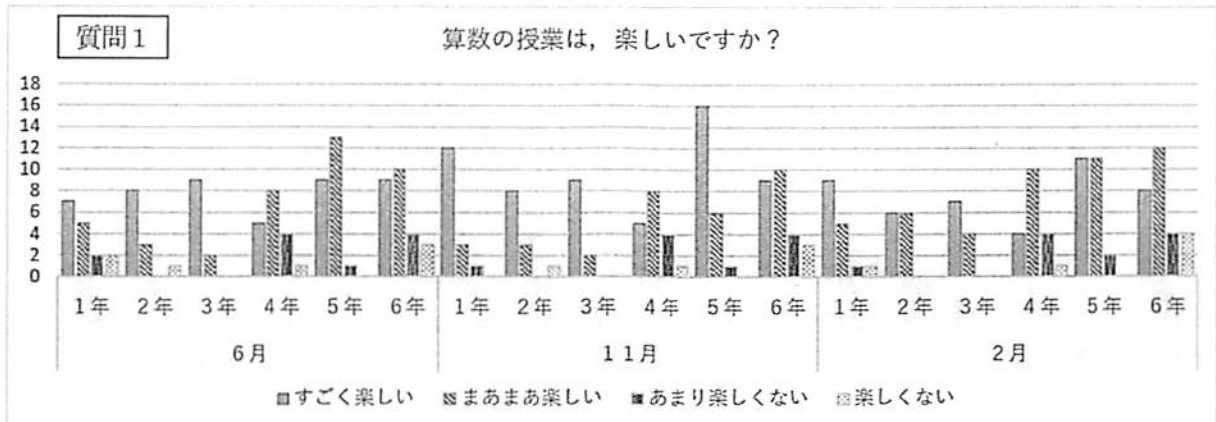
<7つの基本>	評価	コメント
1 笑顔の基本とした表情	○	いい笑顔の授業に感じます。
2 場に応じた声量の変化	○	
3 子どもに合わせたテンポ	○	
4 問を使った言葉の強調	○	
5 子ども全員への視線	○	7:00~10:30の間に、椅子を動かす。
6 子どもの言動を受容	○	いい笑顔と声量に感じました。
7 想定できるだけの準備	○	7:00~10:30の間に、椅子を動かす。
8 学習規律への指導	○	
9 同時行為の禁止	○	

<7つの実践>	評価	コメント
1 一人発言での授業構成はしていない。	○	
2 まとめを自分で書くのであれば学習問題も自分で書く。	○	まとめを自分で書くという点。
3 反例での揺さぶりの意識化	○	
4 ノートの辞書化	○	
5 見通しの2つの視点 (プロセスとゴール)	○	
6 振り返りの2つの視点 (まとめは全体、自己評価は自己ベスト)	○	
7 演者と演出家の使い分け	○	

<目指す児童像> 高学年		評価
主体的	・基礎的基本的な知識及び技能を確実に身に付ける。 ・自分の考えをノートに書き、友達と共有し再思考することができる。	○
よりかえり	・自分の言葉で、その時間に学習した内容を書くことができる。 ・自分で書いた振り返りを次時につなげることができる。	○

<児童の変容>

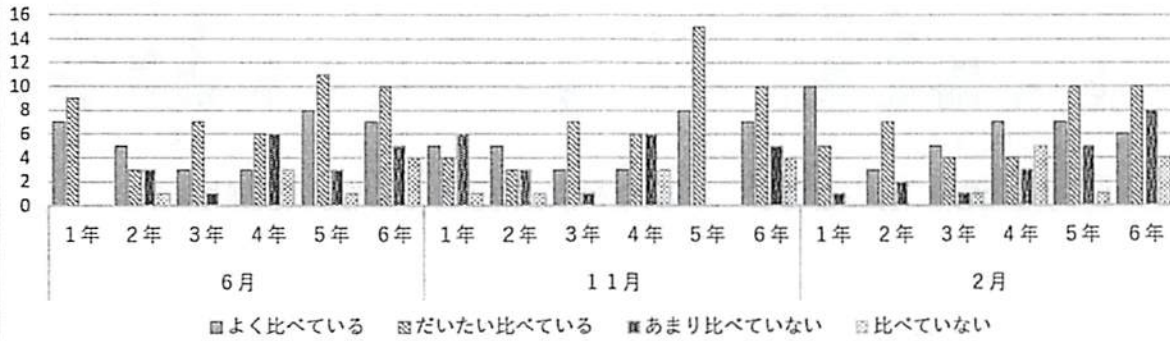
質問・学年ごとに集計した結果





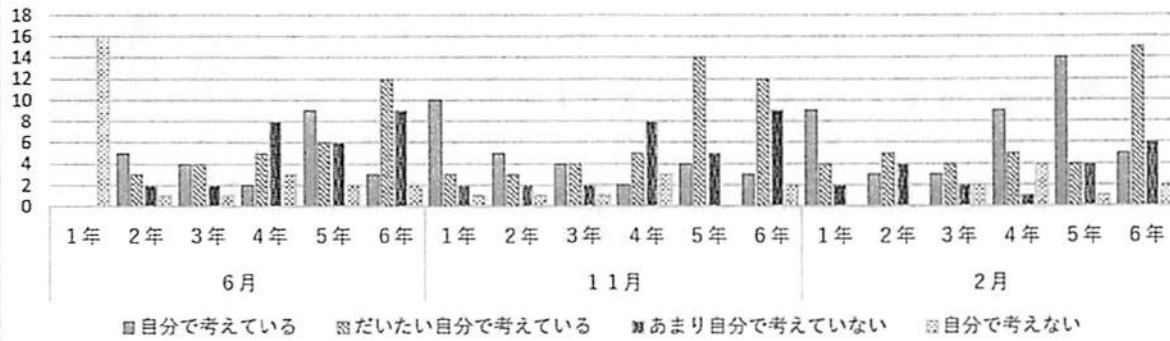
質問5

算数の授業では、自分の考えと友だちの考えを比べていますか？



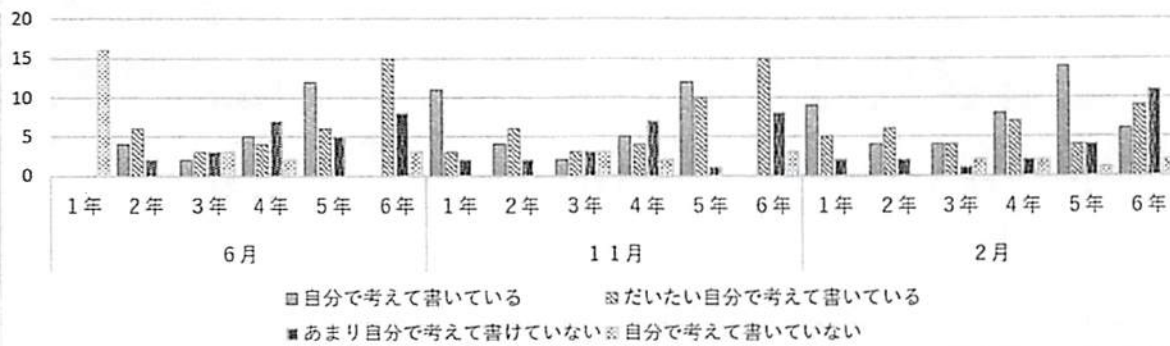
質問6

算数の授業では、自分で学習問題を考えて書いていますか？



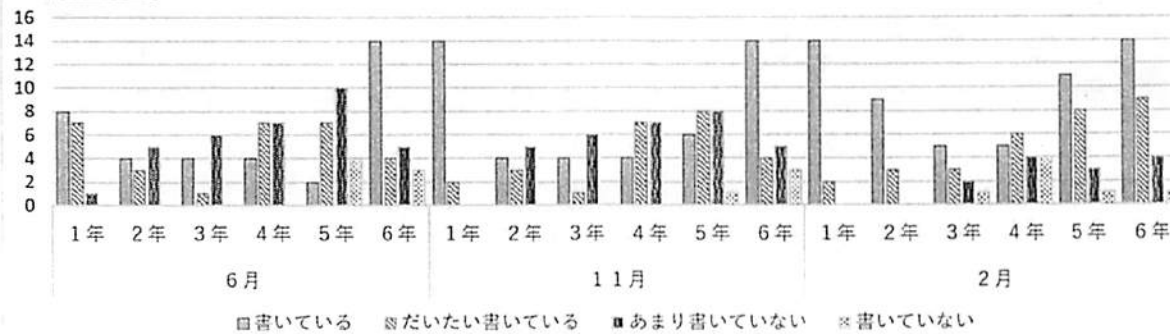
質問7

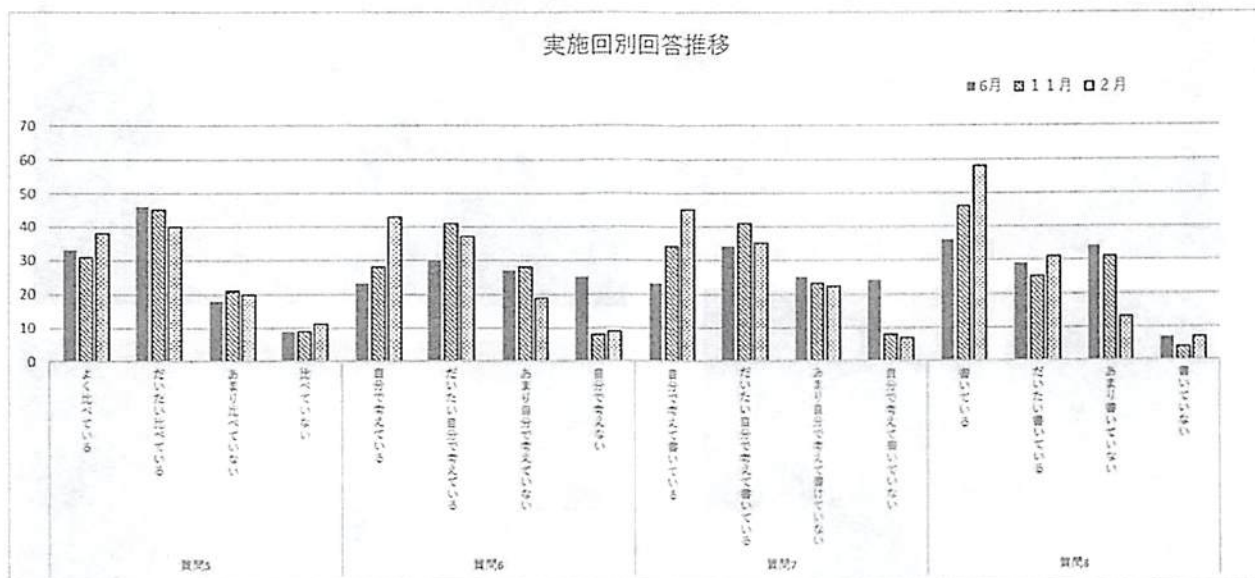
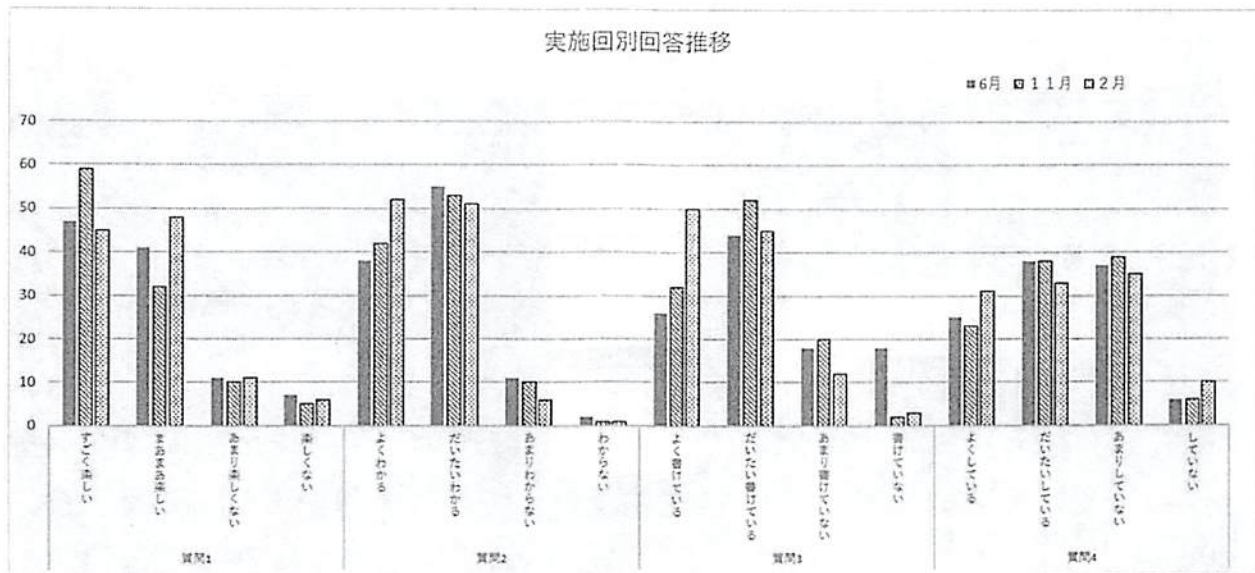
算数の授業では、まとめを自分で考えて書いていますか？



質問8

算数の授業では、振り返りに学んだことを書けていますか？





< 職員対象の研修アンケート結果より >

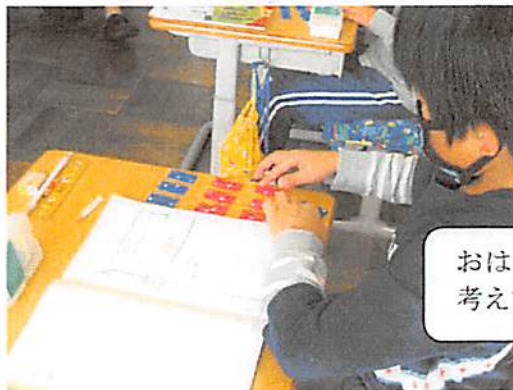
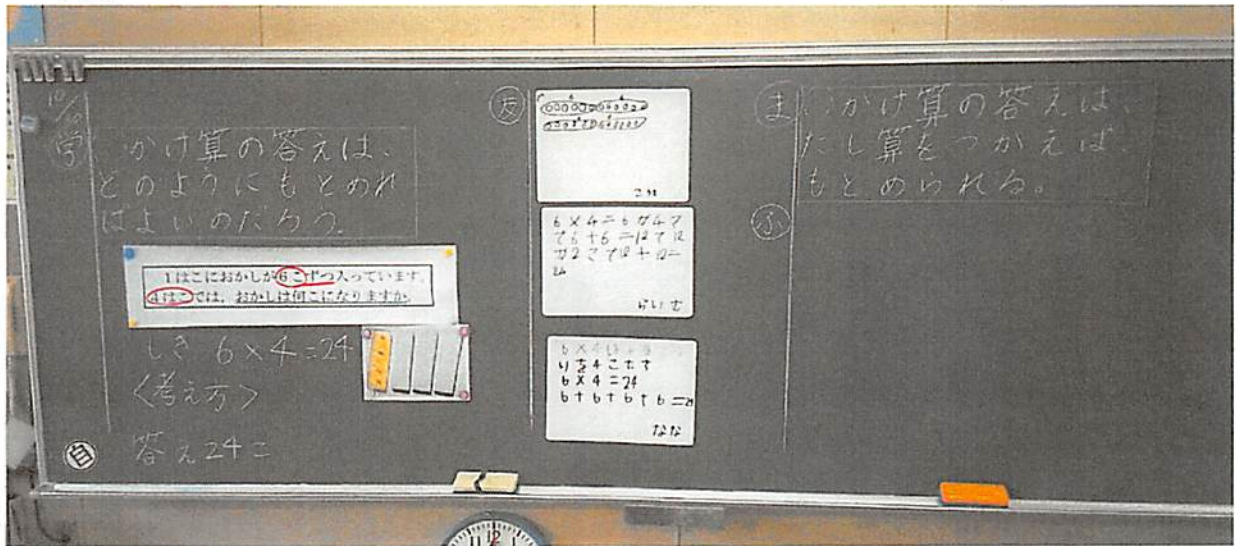
「ご自身の実践」と「学級の児童の実態」について

(1：とても当てはまる。2：当てはまる。3：あまり当てはまらない。4：当てはまらない。)

質問	1	2	3	4
① 児童は自分の考えをもつことができる。	2	7	2	0
② 児童は、主体的（見通し・粘り強く・振り返り・新たな問い）に学習している。	0	9	2	0
③ 学習過程（みなみの学びモデル）を統一した。	4	5	2	0
④ 児童は終末の「ふりかえり」が定着した。	5	3	3	0
⑤ 教師自身の振り返りを意識した。	4	6	1	0
⑥ ICT 機器を積極的に活用した。	5	5	1	0

<第2学年>

- 1 単元名 「新しい計算を考えよう」(かけ算)
- 2 実践

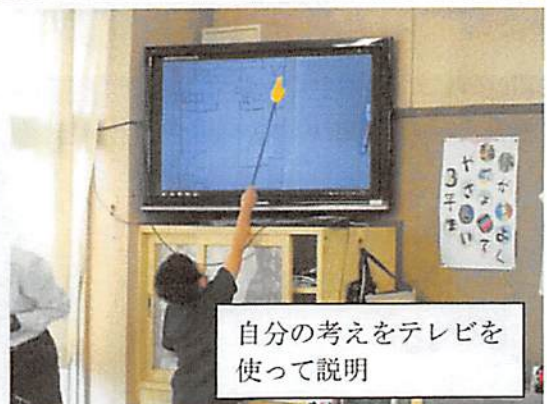
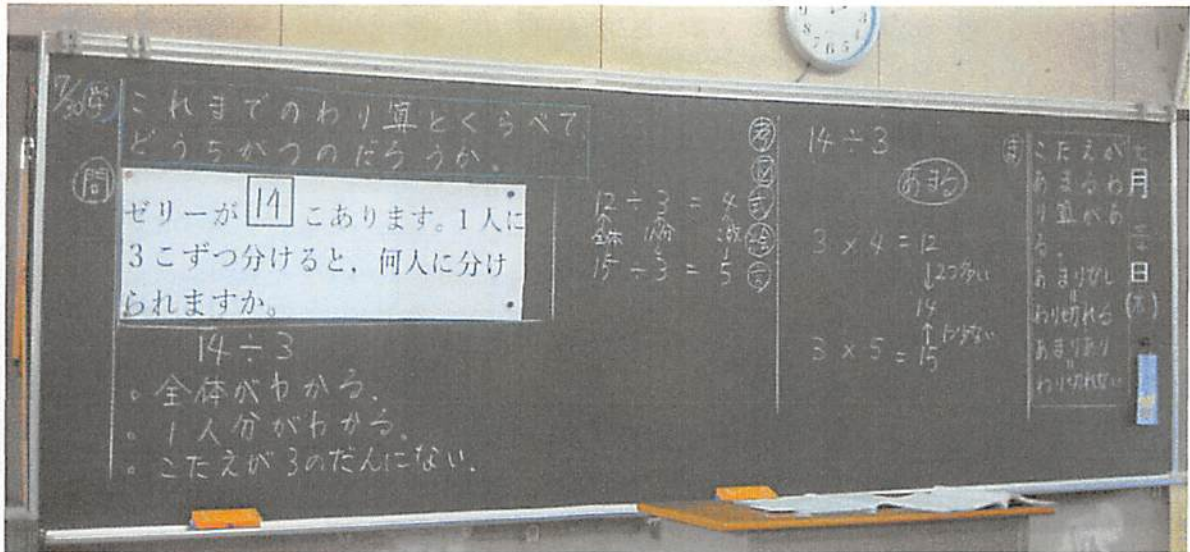


3 成果と課題

- ◎前時までの内容を理解できていたので、「一つ分の数」と「いくつ分」に注目して式を立てることができていた。
- ◎ホワイトボードで発表することで、友達の意見と自分の意見を黒板を見ながら比べることができた。
- ◎ふりかえりカードを使った振り返りが身につく、本時の学習を文字で振り返ることができた。
- △ICTの活用ができなかった。
- △自力解決で半具体物の操作をしたので、全体の間でも図に表すなどでそれを取り上げられれば良かった。
- △振り返りが振り返りだけで止まってしまっている。本時を振り返って次時の活動の意欲へとつなげたい。

<第3学年>

- 1 単元名 「わり算を考えよう」
- 2 実践

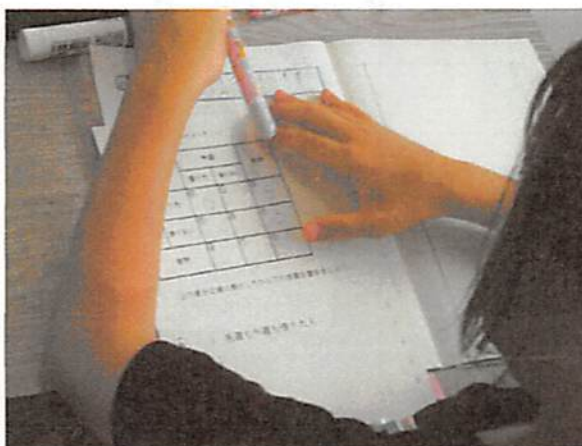
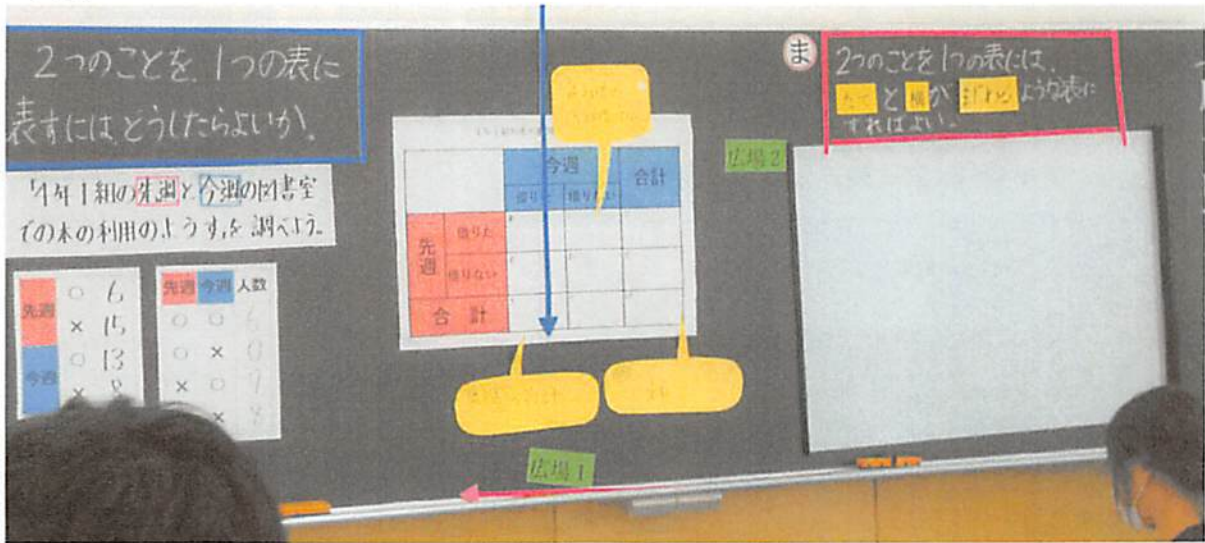


3 成果と課題

- ◎自力解決を、文字や図、式などを使い、問題を解決しようとする意欲が高かった。
- ◎全体で自分の考えを伝える場面では、積極的に発表することができ、友達の発表を付け足してさらに自分の考えを発表することができた。
- ◎ふりかえりは、タブレットを活用して行った。使い始めだが、自分の考えを積極的に書きこむことができ、ふりかえりが主体的になった。
- △わり算の概念が正しく理解されていなかった。「わり算は同じ数ずつ分けること」を理解させておくことが必要であった。
- △学習問題が児童の欲求とずれていた。さらなる教材研究が必要だった。
- △ちょっとしたタイムまで時間が取れなかった。導入をスムーズにするために、既習内容を掲示して、振り返りやすくしておくことが必要だった。

<第4学年>

- 1 単元名 「グラフや表を使って調べよう」
- 2 実践



ワークシートを活用して



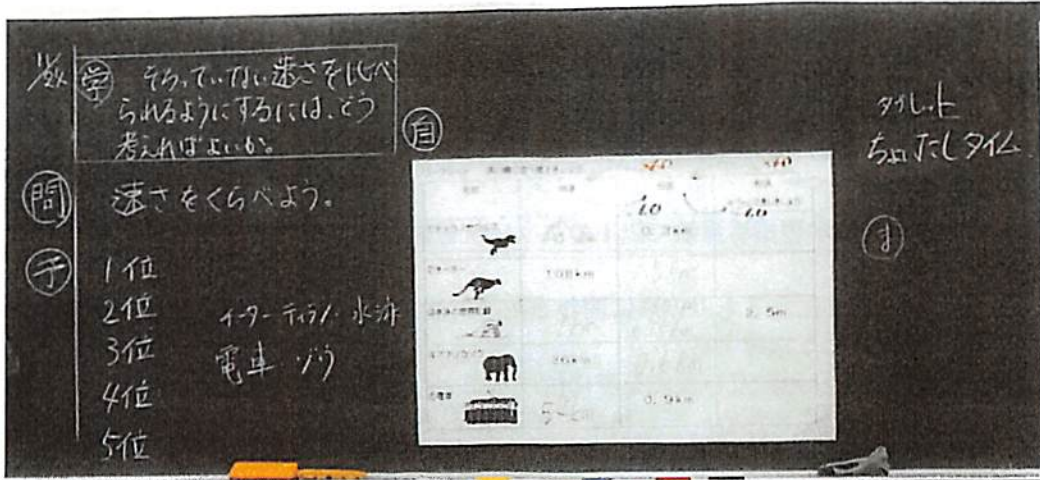
タブレットを活用して

3 成果と課題

- ◎「みなみの学びモデル」に沿った学習計画を行った。毎時間の学習後に、ノートに貼った、振り返りカードに書くことで、次時の学習につなげることができた。
- ◎「見いだす」「調べる」「深める」「まとめあげる」の4つの学習プロセスに沿って学習を展開し、終末には、キーワードを手掛かりに、学習のまとめを書くことができた。
- ◎学習意欲を高めるための振り返りを行った。導入時に、掲示物に書かれた前時までの学習を短時間で振り返り、学習意欲を高めることができた。表を色分け（折れ線グラフのメモリや二次元表の縦と横）して、振り返りしやすいようにした。
- △ICTとアナログをバランスよく活用するとよい。
- △タブレットとノートを使い分けると良い。
- △二次元表の良さが子供たちの中に入っていきように広げ深めていきたい。

<第5学年>

- 1 単元名 比べ方を考えよう (1)「単位量あたりの大きさ」
- 2 実践



タブレットによる問題解決



ちよいたしタイムをタブレット上で行う

3 成果と課題

- ◎児童にとって身近な具体物を例に挙げることで、学習に必要感が生まれ、主体的に学習に臨む姿が多く見られた。
- ◎見通しをもつ際に図や数直線などを用いて学習を行ってきたので、自力解決ができる児童が増えた。
- ◎毎時間ちよいたしタイムを行ったので、自分の考えを深めることができた。
- ◎振り返りカードをノート最後のページに貼って活用し、毎時間の学習の振り返りをさせたので、次時への意欲につなげることができた。

△教師主体になる場面が多いように思われた。児童同士が日常生活などから必要感を見出し、より主体的に取り組めるように支援する必要がある。

△児童によって書き方にばらつきがあるため、振り返りカードの書き方をより指導すべきであった。

△ノートとの併用が難しい。どのように活用すれば効率がいいか模索していきたい。